

## 高知県内で初の視覚障がい者向け地デジ説明会を開催

姫路、奈良、愛媛、福山、岡山、京都、北九州……。高知県内の光ケーブル敷設事業のために動員された高所作業車のナンバー登録の地名だ。年度末の事業完成を目指して、急ピッチで各地から資機材、人員を集めて工事を進めている。

### 人口1万6,000人の室戸市で 4月1日にケーブルテレビ開局

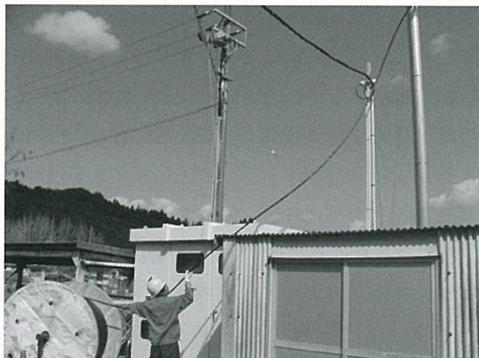
高知県の光ケーブル敷設事業は、その多くが麻生政権時に平成21年度の経済対策によって打ち出されたため、平成22年度に繰り越しとなっていて、平成23年度に入ってから事業執行はできない仕組みだ。

県東南部にある室戸市（人口1万6,000人）では、4月1日のケーブルテレビ新規開局を目指して、幹線の工事はすでに終わった。専門業者だけでは手が足りないのが、空調工事をする業者が柱を建てる工事を手伝っていた。

市内の8,700世帯のうち、月額1,050円以上のプランで加入申し込みがあったのは1,600世帯ほどで、加入率は約19%。75歳以上の高齢者世帯や障がい者世帯、また介護が必要な世帯には、見守り用の告知情報端末を置いた。

アナログ対応の自主共聴施設がある地区を含め、全地区に幹線ケーブルを敷設した。ブロードバンドとケーブルテレビを楽しめる環境を整えることで、今回の地デジ対策にした。

急ごしらえの事業導入と進展だったため、インターネット接続とケーブルテレビを請け負う民間会社は、当面の自主放送は字幕で市のお知らせなどを流す内容だが、将来的には学校の行事や防災のポイントなどの映像を紹介したいという。今後も加入啓発に向けて、市の協力でパソコン教室を開くことも計画している。



光ケーブル敷設工事

文：川竹大輔 Kawatake Daisuke  
NPO法人デジタルこうち推進協会 専務理事



昭和44（1969）年生まれ。朝日新聞記者、三重県津市議会議員を経て、平成12（2000）年から橋本大二郎高知県知事の特別職秘書、安芸市助役を務める。平成18（2006）年からデジタルこうち推進協会専務理事。



視覚障がい者向け地デジ説明会

室戸市では、東北地方太平洋沖地震の直接的な被害はなかったものの、地震発生翌日は工事がすべて中止になったが、順次山間部から工事を再開してきた。

### 予想を超えて集まった 視覚障がい者向け地デジ説明会

地震発生2日後の13日に、高知県で初めての視覚障がい者向け地デジ説明会が開かれた。音声案内が充実する「しゃべるテレビ」を開発した三菱電機とパナソニックの担当者による説明・体験もある催しだった。

災害犠牲者に対する黙祷から始まった説明会は、10名も来てくれるかなという予想だったが、視覚障がい者とその家族などで40名近い参加があった。自宅でデジタル化の準備ができている方に合図してもらいと、全体の3分の2ほどが対応済みで、国の発表数字とはずいぶん違う感触であった。

この日までに全国で2,100回を超える障がい者向け説明会を開いてきたCS障害者放送統一機構の梅田ひろ子理事は、「音声で番組を説明する解説放送のある番組は、まだ全体の5%以下。障がいのあるみなさんに地デジ対応をしてもらい、声を上げていくことで、障がい者対応の番組を広げていきたい」と話す。

今回の盛況をうけて7月の地デジ完全移行まで、あと何度かは障がい者向けの説明会を開いていきたいということだ。

